

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	札幌国際大学
設置者名	学校法人札幌国際大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人文学部	国際教養学科	夜・通信	90	2	60	152	13	
	心理学科 臨床心理専攻	夜・通信			102	194	13	
	心理学科 子ども心理専攻	夜・通信			112	204	13	
観光学部	観光ビジネス学科	夜・通信			132	222	13	
スポーツ人間学部	スポーツビジネス学科	夜・通信		24	30	144	13	
	スポーツ指導学科	夜・通信			40	154	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://cplan-portal.siu.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku>

抽出方法：「ナンバリング」→ 各主催区分を入力

L A S：全学共通教育科目

L A G：人文学部国際教養学科科目

C L P：人文学部心理学科臨床心理専攻

P C D：人文学部心理学科子ども心理専攻

T R M：観光学部観光ビジネス学科

S P B：スポーツ人間学部スポーツビジネス学科

S P I：スポーツ人間学部スポーツ指導学科

「実務経験のある教員による授業」→ 「○」を選択

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌国際大学
設置者名	学校法人札幌国際大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_175813.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) 国家公務員	令和7年6月 26日～令和 9年度の初 回定時評議 員会の終結 時まで	組織運営体制への チェック機能
非常勤	(現職) 民間法人役員	令和7年6月 26日～令和 9年度の初 回定時評議 員会の終結 時まで	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌国際大学
設置者名	学校法人札幌国際大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教員に対して次年度担当授業科目のお知らせをする際に、当該授業科目のシラバス原稿の作成依頼をあわせて行っている。シラバスの記載項目は、「授業の目的と概要」「到達目標」「授業の進め方」「アクティブ・ラーニング」「課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法」「授業計画」「事前事後学修」「ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)との関連」「成績評価基準と方法」「テキスト」「参考文献」「実務経験のある教員の有無」「実務経験のある教員の経歴と授業内容」等について記載することとし、各項目の記載内容及び記載例をシラバス作成要領で示している。 シラバスは、Web上で入力可能なシステムが構築されており、教員はWeb上に表示される次年度担当授業科目一覧から選択し入力していく。 入力締め切り後、「シラバスチェック実施要領」で定められたチェックの観点に基づいて、各学科等の教務部員が内容の確認を行う。チェックの結果、明らかに基準に合致していないと判断される場合には、当該教員にフィードバックし修正を求める。 なお、シラバスの作成についてはすべての学部で同様に進められ、当該年度の4月1日にWeb公開している。	
授業計画書の公表方法	https://cplan-portal.siu.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は期末試験だけではなく、授業内の小テスト・発表・レポート・課題への取り組み状況など複数の項目の合計得点によって決定している。科目担当者はこれらの配点をシラバスに明記するとともに、各項目の得点を記した資料を単位成績認定時に提出し、成績の算出根拠を明示するなど厳密な成績評価を実施している。成績評価の基準は科目ごとにシラバスで示されており、『STUDENT HANDBOOK』に明記されている次の2つの原則に則ったものとなっている。 1) 科目の単位は、原則として授業のすべてに出席し、事前事後の自己学習を含めた学習に対して認められる。 2) 病気などによりやむを得ず欠席したとしても、学習内容の理解と習得には3分の2以上の出席が必要である。 なお、成績評価の基準はすべての学部で同様に取り扱っている	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学習を効果的に進め、その質を高めるためにGPA制度を全学部で統一的に導入している。学生の成績評価を数値化することで、客観的に学習成果をモニターすることができる。 GPAは科目毎の成績評価に対して0.0点(不可)、1.0点(可)、2.0点(良)、3.0点(優)、4.0点(優+)のグレードポイントをつけ、1単位当たりの平均成績評価点を算出する。また、GPAの算出方法については『STUDENT HANDBOOK』に明記して学生に周知している。さらに、各学期末にGPAが記載された個人成績表を保護者に通知する際、GPA制度についての説明を付し周知を図っている。 なお、学生の学習時間の確保のためCAP制度を導入し、次の各学期の履修上限単位数を設定し、運用している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	『STUDENT HANDBOOK』 p 72～73 に記載 (https://www.siu.ac.jp/assets/pdf/2025siu.pdf)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 札幌国際大学は「教育理念」を踏まえて、次のように学位授与の方針を定める。「専門知識・技能を活用する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見し、解決する力」「多様性の理解と協働する力」「能動的に学び続ける力」「社会に貢献する姿勢」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された各学科、各専攻の教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学位規則に従い学士の学位を授与する。 【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力) (DP1) 各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。 【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性) (DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性) (DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心) (DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲) (DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心) (DP6) 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。 さらに学部、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針を定めホームページに掲載している。 卒業の要件は『STUDENT HANDBOOK』に明示し、教務部及び教授会で厳格な卒業判定を実施している。卒業の要件は次の3つである。 1) 4年以上在学すること。ただし、休学等による学修中断の期間は、この在学期間に含まれない。また、在学可能期間は、休学期間を除き8年間が限度である。 2) 学則に定められた各学科の教育課程および履修方法によって124単位以上を修得すること。 3) 定められた授業料を完納すること。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	卒業認定・学位授与の方針：『STUDENT HANDBOOK』 p. 112 https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=33 卒業要件：『STUDENT HANDBOOK』 p. 46 に記載

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	札幌国際大学
設置者名	学校法人札幌国際大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf
財産目録	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf
事業報告書	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250626_150311.pdf
監事による監査報告(書)	https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250627_173512.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250324_193441.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://siu.ac.jp/common/img/content/content_20250324_193413.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 学部共通
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20230607_165257.pdf
(概要)
人文学部 人間の理解をテーマに真理を探究する心と感性を養い、人文学の基礎的知識を習得するだけでなく知識の活用能力を持った自立し行動できる人材を育成する。
国際教養学科 「全人教育」により、アジアに位置する日本の大学として歴史を誠実に見つめ、異なる文化や考え方を柔軟に受けとめ「理解する力」、「活かす力」、「自己発信する力」を獲得する人材を養成する。
現代文化学科 言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めることで、グローバルに活躍できる人材を育成する。
心理学科 教養教育によって培われる豊かな人間性を基盤に、心理学の基礎理論と臨床心理学的援助及び幼児教育・保育の知識と技能を習得して、医療、福祉、教育、保育などの現場で、専門的対人援助が行える基礎力を育成する。
観光学部 観光に関する専門的知識・実践的な知識を有し、観光を通じた地域振興と国内・国際観光の分野で活躍できる人材を育成する。
観光ビジネス学科 豊かな教養ともてなしの姿勢を培い、観光ビジネスについて体系的・実践的に学習し、企業や団体等の組織における経営活動を推進する人材を育成する。
国際観光学科 豊かな教養ともてなしの姿勢を培い、観光振興、観光文化について体系的・実践的に学習し、観光の国際化に対応する団体や企業等の活動を推進する人材を育成する。
スポーツ人間学部 生涯学習社会への移行とともに高まっているスポーツや健康に対する社会の要請に応え、地域スポーツの振興と個人の健康づくりに貢献できる有為な人材を育成する。
スポーツビジネス学科 スポーツや健康に関する知識を習得し、スポーツビジネスの現場で活躍できる人材を育成する。
スポーツ指導学科 生涯スポーツの育成発展に努めながら、スポーツを通して地域社会に貢献できる教養豊かなスポーツ指導者を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項） https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=33

(概要) 札幌国際大学は「教育理念」を踏まえて、次のように学位授与の方針を定める。「専門知識・技能を活用する力」「コミュニケーション能力」「課題を発見し、解決する力」「多様性の理解と協働する力」「能動的に学び続ける力」「社会に貢献する姿勢」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された各学科、各専攻の教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学位規則に従い学士の学位を授与する。 【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） (DP1) 各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。 【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） (DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） (DP3) 現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） (DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） (DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） (DP6) 地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。	教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項） https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=12
(概要) 札幌国際大学は、学生が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示した資質・能力を身に付けることができるように、以下の方針に基づき教育課程を編成する。 (CP1) 【初年次教育】高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。 (CP2) 【教養教育】幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。 (CP3) 【専門教育】専門教育において、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーに基づき専門性を身に付けることができるように、順次性のある体系的な科目配置を行う。 (CP4) 【教育方法】コミュニケーション能力や他者と協働する力の向上のため、PBL やグループワーク、フィールドワーク等のアクティブラーニング型の科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (CP5) 【教育方法・評価方法】CAP 制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項） https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=16
(概要) 札幌国際大学は自由、自立、自省の精神による人間形成を重んじ、地域社会の発展に寄与することができる国際人を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受入れる。 【求める学生像】 (AP1) 本学での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】 (AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】 (AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】 (AP4) 希望する専攻分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。	

【意欲・関心】

(AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】

学部等名 人文学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20230607_165257.pdf

（概要）

人間の理解をテーマに真理を探究する心と感性を養い、人文学の基礎的知識を習得するだけでなく知識の活用能力を持った自立し行動できる人材を育成する。

国際教養学科

「全人教育」により、アジアに位置する日本の大学として歴史を誠実に見つめ、異なる文化や考え方を柔軟に受けとめ「理解する力」、「活かす力」、「自己発信する力」を獲得する人材を養成する。

現代文化学科

言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めることで、グローバルに活躍できる人材を育成する。

心理学科

教養教育によって培われる豊かな人間性を基盤に、心理学の基礎理論と臨床心理学的援助及び幼児教育・保育の知識と技能を習得して、医療、福祉、教育、保育などの現場で、専門的対人援助が行える基礎力を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項 <https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=33>）

現代文化学科

言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めることで、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的としており、所定の期間在学し、学部・学科の教育理念、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得し、卒業までに下記に示す姿勢や能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位規則に従い学士の学位を授与する。

- ① 文化領域における基礎的知識の修得
- ② 言語、コミュニケーション領域における基礎的技術の修得
- ③ 上記①、②を基にした専門知識、技術の修得
- ④ 国際社会に関する教養の修得
- ⑤ 修得した知識、技術の活用能力
- ⑥ 自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力

国際教養学科

所定の期間在学し、所定の単位数を修得し、下記に示す姿勢や能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位規則に従い学士の学位を授与する。

- ①【専門知識・技術を活用する力】（知識・技術・判断力）
(DP1) 多言語コミュニケーション、地域づくり、グローバルビジネスの各分野において、社会、文化、言語、歴史、産業についての知識・技術を修得し、活用することができる。
- ②【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）
(DP2) 他者の文化や価値観を尊重し、外国語や情報通信技術を適切に活用し対話することができる。
- ③【課題を発見し、解決する力】（技術・思考力・判断力・表現力・主体性）
(DP3) 適切な情報収集と客観的な分析から課題を明らかにし、具体的な解決策を考え出すことができる。
- ④【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）
(DP4) 対話を通して多様な人々と相互理解を深め、共通の目標に向かって協力して活動することができる。

⑤【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

（DP5）変化する社会に広く関心を持ち、新たな知識を意欲的に学び続けることができる。

⑥【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

（DP6）多文化共生社会の実現と発展に貢献するため、積極的に行動する意欲を有する。

心理学科（臨床心理専攻）

所定の期間在学し、所定の単位数を修得し、下記に示す姿勢や能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位規則に従い学士の学位を授与する。

①【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

（DP1）心理学領域及び臨床心理学領域の基礎的な知識・技能を修得し、活用することができる。

②【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

（DP2）心理学的な知識・技能に基づいて他者を理解し、相手や状況に応じて自らの考えを伝え、建設的な議論ができる。

③【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

（DP3）心理学的観点を踏まえて現状を客観的に分析し、課題を明らかにした上で、見通しを立ててその解決に取り組むことができる。

④【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

（DP4）様々な人の立場や背景を理解した上で円滑な関係を構築し、協働して物事に取り組むことができる。

⑤【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

（DP5）幅広い教養に基づいて広く社会に関心を持ち、継続的に知識・経験を積み上げることができる。

⑥【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

（DP6）地域社会に関する問題を心理学的な観点から捉え、他者と協働し地域に貢献する意欲を有する。

心理学科（子ども心理専攻）

所定の期間在学し、所定の単位数を修得し、下記に示す姿勢や能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位規則に従い学士の学位を授与する。

①【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

（DP1）心理学領域及び幼児教育・保育領域に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

②【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

（DP2）心理学を基盤とし、幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。

③【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

（DP3）幼児教育・保育の現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。

④【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

（DP4）幼児教育・保育の場において、年齢、性別、国籍、障がいの有無などの多様性を理解し、適切な対応をすることができる。

⑤【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

（DP5）教育・保育の分野において最新の情報を得る努力を怠らず、より良い教育・保育の在り方を検討し、実践、評価、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

⑥【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

（DP6）理想の保育を求め、研究・実践に携わるリーダーとしての自覚を持ち、地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項、<https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=12>）

(概要)

国際教養学科

- (CP1) 【初年次教育】高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。
- (CP2) 【教養教育】幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。
- (CP3-1) 【専門教育】人文学領域の基礎知識の修得を図るために、学科基礎科目を配置する。
- (CP3-2) 【専門教育】幅広い知識の修得を図るため、国際・産業社会、言語、文化・地域、コミュニケーション、学芸員に関する5分野について、学科専門科目を配置する。
- (CP3-3) 【専門教育】専門的な知識・技能を身に付けることができるように、系統性と順次性を踏まえ、期別及び学年配置を行う。
- (CP3-4) 【専門教育】多文化理解を深め、言語コミュニケーション能力の向上を図るため、学外学修の充実を図る。
- (CP4-1) 【教育方法】国際的な視野を獲得し実践力を高めるため、フィールドワークにより、主体的・対話的で深い学修を展開する。
- (CP4-2) 【教育方法】コミュニケーション能力や他者と協働する力の向上を図るために、PBL・グループワーク等のアクティブラーニングを展開する。
- (CP4-3) 【教育方法】教え学び協働する意義を体得させるため、異学年間のコミュニケーションを深める学修を展開する。
- (CP5) 【教育方法・評価方法】CAP制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。

現代文化学科

言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めることで、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的としており、学生が卒業までにこの目的を達成するための教育課程を下記に示す教育課程編成・実施の方針に基づき設定する。

- ① 高大接続の観点から大学教育への円滑な移行を促すため初年次教育の充実を図る。
- ② 「学びの技法Ⅰ」、「基礎演習Ⅰ」等の授業において現代文化への問題意識を高め、考察力、発信力を身に付ける。
- ③ 「現代文化論」、「現代思想」、「メディア・リテラシー論」等の授業において現代、日本、社会、文化といった多元的視点から現代文化の諸相を理解する。
- ④ 「国際関係論」、「近代日本史」、「博物館概論」、「社会言語学」、「ConversationⅠ・Ⅱ」等の授業において現代文化に関わる専門知識と技能を修得する。
- ⑤ 「プロジェクト演習Ⅰ」、「応用演習Ⅰ」、「テーマ研究Ⅰ」、「卒業研究」等の授業において実践力、課題発見・課題解決力を修得する。
- ⑥ 演習、実習、フィールドワーク、インターンシップ等を通じた実践的・体験的な学びを重視し、能動的・自主的な学修の充実を図る。
- ⑦ キャリア形成の観点から、キャリア科目を体系的に設定し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育む。
- ⑧ 成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに記載する成績評価基準・方法等および学則、規程等に定める所定単位修得により学修成果を評価し、その客観性を担保するため、複層的な積み上げによる多面的・総合的な成績評価を実施する。

心理学科(臨床心理専攻)

- (CP1) 【初年次教育】高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。
- (CP2) 【教養教育】幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。
- (CP3-1) 【専門教育】系統性と順次性を踏まえ、基礎的な知識・能力を身に付けるための科目と主体的・応用的な深い学びを実現するための科目を配置する。
- (CP3-2) 【専門教育】心理学的な考え方や知識を身に付けることができるように、心理学

及び関連分野の幅広い講義科目を配置する。 (CP3-3) 【専門教育】 実践を通して、心理学的な人間理解の視点とコミュニケーションスキルを身に付けることができるように、臨床心理学の実技に関する科目を配置する。 (CP3-4) 【専門教育】 データに基づいて科学的に物事を捉える能力を身に付けることができるように、心理学の研究法に関する科目を配置する。 (CP4-1) 【教育方法】 コミュニケーション能力や他者と協働する力の向上のため、グループワークを導入する。 (CP4-2) 【教育方法】 プロジェクトを用いた学習を展開し、主体的な学びを実現する。 (CP4-3) 【教育方法】 知識として学んだことを実践で活かすことができるように、体験を重視したフィールドワークを展開する。 (CP5) 【教育方法・評価方法】 CAP 制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。 <u>心理学科(子ども心理専攻)</u> (CP1) 【初年次教育】 高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。 (CP2) 【教養教育】 幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。 (CP3-1) 【専門教育】 心理学領域の基礎的知識を身に付けることができるように、順次性のある体系的な科目配置を行う。 (CP3-2) 【専門教育】 幼児教育・保育領域に関する知識・技能の修得のために、順次性のある体系的な科目配置を行う。 (CP3-3) 【専門教育】 幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のための必修科目、選択科目を体系的に配置する。 (CP3-4) 【専門教育】 こども音楽療育士資格取得のための必修科目、選択科目を体系的に配置する。 (CP4-1) 【教育方法】 専門知識・技能を活用する力の向上のため、保育施設等において行うフィールドワーク科目や、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のための実習科目を配置し、実践的な学びを展開する。 (CP4-2) 【教育方法】 課題を発見し、解決する力や、能動的に学び続ける力、社会に貢献する姿勢を養うため、PBL やグループワーク、フィールドワーク等のアクティブラーニング型の科目と座学科目を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (CP4-3) 【教育方法】 多様性を理解する力の向上のため、障がい児(者)理解、障がい児(者)支援に関わる科目を配置する。 (CP5) 【教育方法・評価方法】 CAP 制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項） https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=16
(概要) <u>国際教養学科</u> 歴史を誠実に見つめ、異なる文化や考え方を柔軟に受け止め「理解する力」、「活かす力」、「自己発信する力」を身に付けた人材を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。 【求める学生像】 (AP1) 本学科での学修に必要な学力を有している人。 【知識・技能】 (AP2) 他者の考えを尊重し、自らの考えを的確に伝えるコミュニケーション力を有し、協働して学ぶ意欲を持つ人。 【主体性・多様性・協働性】	

(AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】 (AP4) 社会、文化、言語、歴史、産業分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】 (AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】 <u>心理学科（臨床心理専攻）</u> 心理学科臨床心理専攻は、豊かな人間性を基盤に、心理学の基礎理論と臨床心理学的援助の知識と技能を習得して、医療、福祉、教育などの現場で、専門的対人援助が行える基礎力を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。 【求める学生像】 (AP1) 本専攻での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】 (AP2) 自らの考えを持ち、他者と積極的に協働できる人。【主体性・多様性・協働性】 (AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、文章や会話を通して伝えることができる人。【思考力・判断力・表現力】 (AP4) 心理学及び臨床心理学の分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】 (AP5) 他者との協働に必要な社会性を持ち、目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】 <u>心理学科（子ども心理専攻）</u> 心理学科子ども心理専攻は、心理学を基盤とした幼児教育、保育の知識と技能を習得し、時代に合った最善の保育を求めて常に研究を続け、実践に活かすことのできる保育者を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。 【求める学生像】 (AP1) 本専攻での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】 (AP2) 他者の考えを尊重しつつ、自らの考えを他者へ的確に伝えることができるコミュニケーション力を有し、相互理解のうえ協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】 (AP3) 子どもや保育、福祉に関わる諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】 (AP4) 教育・保育、心理学の分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】 (AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】
--

学部等名 観光学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20230607_165257.pdf） 観光に関する専門的知識・実践的な知識を有し、観光を通じた地域振興と国内・国際観光の分野で活躍できる人材を育成する。 <u>観光ビジネス学科</u> 豊かな教養ともてなしの姿勢を培い、観光ビジネスについて体系的・実践的に学習し、企業や団体等の組織における経営活動を推進する <u>国際観光学科</u> 豊かな教養ともてなしの姿勢を培い、観光振興、観光文化について体系的・実践的に学習し、観光の国際化に対応する団体や企業等の活動を推進する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ステューデントハンドブック、入学試験要項、 https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=33）

(概要) <u>観光ビジネス学科</u> 【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） (DP1) 観光ビジネスに関する専門知識・技能を修得し活用することができる。 【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） (DP2) 観光ビジネスに関する資料の内容理解・作成・発表ができ、相手に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） (DP3) 観光ビジネスや地域社会の現状を把握し、課題を分析し、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） (DP4) 言語や文化等が異なる多様な人々と円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） (DP5) 自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） (DP6) 地域社会に貢献する活動に自発的に取り組む意欲を有する。 <u>国際観光学科</u> 【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） (DP1) 国際観光分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。 【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） (DP2) 資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） (DP3) 国内外の観光を取り巻く現状を把握し、課題を発見し、根拠に基づき分析することで、改善や解決のための方法をまとめることができる。 【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） (DP4) 他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） (DP5) 国際観光振興や町づくりに関して、自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） (DP6) 観光分野による地域社会活動に貢献する姿勢を身につけ、その意欲を有する。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項、https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=12）	(概要) <u>観光ビジネス学科</u> (CP1) 【初年次教育】高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。 (CP2) 【教養教育】幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。 (CP3-1) 【専門教育】観光学の基礎を身に付けるために観光学部基幹科目を設置する。 (CP3-2) 【専門教育】観光ビジネスの現場に即したより専門的な知識習得のために観光学部専門科目を設置する。 (CP4-1) 【教育方法】他者とのコミュニケーションを円滑にするために必要な PC スキル、ICT リテラシー等を身につける機会を設ける。 (CP4-2) 【教育方法】演習やフィールドワークを通して、観光ビジネスや異文化交流の現場で実践的に学ぶ機会を設ける。 (CP4-3) 【教育方法】座学、PBL、インターンシップやフィールドワークといった多様で実践的な学びの機会を設ける。 (CP5) 【教育方法・評価方法】CAP 制により十分な学修時間を確保し、授業時間外
---	---

の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。

国際観光学科

豊かな教養ともてなしの姿勢を培い、地域の観光振興、観光文化に資する国際観光についての専門的、実践的な知識を修得し、国際観光分野で活躍する人材の育成を目的としており、学生が卒業までにこの目的を達成するための教育課程を下記に示す教育課程編成・実施の方針に基づき設定する。

①高大接続の観点から、大学教育への円滑な移行を促すため、初年次教育の充実を図る。

②「国際観光論」、「国際観光ビジネス」、「インバウンド概論」などを中心に国際観光の基礎的知識の修得に関する科目を設定する。

③「アジア観光論」、「観光地形成」などを中心に国際観光の専門知識の修得に関する科目を設定する。

④「海外観光研修」、「観光ボランティア」などを中心に国際観光の実践的知識の修得に関する科目を設定し、能動的・自主的な学修の充実を図る。

⑤キャリア形成の観点から、キャリア科目を体系的に設定し、社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育む。「観光学部共通科目」に配置している「ホスピタリティ論」、「観光実践演習」などは自立して行動できる姿勢を養う科目である。加えて、「キャリア科目」に設定されている「インターンシップ A」などは企業の受入の承諾があって成立する科目であり、社会人としての礼儀、職務に対する勤勉性などが企業により評価されるため、事前に自主的に姿勢を整えることが不可欠である。

⑥成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに記載する成績評価基準・方法等および学則、規程等に定める所定単位修得により学修成果を評価し、その客観性を担保するため、複層的な積み上げによる多面的・総合的な成績評価を実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入試要項）

<https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=16>

（概要）

観光ビジネス学科

豊かな教養ともてなしの姿勢を培い、観光ビジネスについて体系的・実践的に学習し、企業や団体等の組織における経営活動を推進する人材を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。

【求める学生像】

(AP1) 本学科での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】

(AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】

(AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】

(AP4) 観光ビジネスに興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】

(AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】

学部等名 スポーツ人間学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20230607_165257.pdf）

（概要）

生涯学習社会への移行とともに高まっているスポーツや健康に対する社会の要請に応え、地域スポーツの振興と個人の健康づくりに貢献できる有為な人材を育成する

スポーツビジネス学科

スポーツや健康に関する知識を習得し、スポーツビジネスの現場で活躍できる人材を育成する。

スポーツ指導学科

生涯スポーツの育成発展に努めながら、スポーツを通して地域社会に貢献できる教養豊かな

なスポーツ指導者を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項 https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=33 ）
（概要） <u>スポーツビジネス学科</u> 【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） (DP1) 情報を収集、整理、活用することができる。 【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） (DP2) 人間関係やチームワークを形成するために、自分の意見をわかりやすく伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） (DP3) 現状を分析し、課題を明らかにするとともに、その解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） (DP4) 地域住民や多様な関係者と相互理解を深め、目標に向かって合意形成に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） (DP5) 計画・行動・評価・改善を図りながら、知識・技術を更新し、継続的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） (DP6) 地域に対する高い関心を持ち、理解を深め、社会に貢献することができる。 <u>スポーツ指導学科</u> 【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） (DP1) 専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、各種の運動・スポーツならにその指導を行うための技能に習熟し、それらを活用することができる。 【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） (DP2) 集団において相互理解を深め、問題や課題について情報を共有し、自らの考えを伝えることができる。 【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） (DP3) 科学的視点に基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。 【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心） (DP4) スポーツ・インテグリティに対する理解に基づき、目標達成のために他者と協働して課題に取り組むことができる。 【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） (DP5) 信頼性と妥当性の高い情報の収集を通じて自らの計画・行動を評価し、改善を図りながら能動的に学ぶことができる。 【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心） (DP6) スポーツの振興ならびに生涯スポーツの実現に向けた持続可能な取り組みを通じて、地域社会に貢献しようとする意欲を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項） https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=12
（概要） <u>スポーツビジネス学科</u> (CP1) 【初年次教育】高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。 (CP2) 【教養教育】幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。 (CP3-1) 【専門教育】スポーツ・健康・スポーツビジネスに関する専門的な知識・技能を身に付けることができるように、系統性と順次性を踏まえ、期別及び学年配置を行う。 (CP3-2) 【専門教育】スポーツ・健康・スポーツビジネスを中心にすえ、さらにそれらを

複合的に扱う科目を配置し、学科専門科目を展開する。 (CP3-3) 【専門教育】全学共通科目との連動を図り、基礎的知識とスポーツ現場をつなぐ往還的な科目展開をする。 (CP4-1) 【教育方法】コミュニケーション能力や他者と協働する力の向上を図るため、PBLやグループワーク等のアクティブラーニングにより、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (CP4-2) 【教育方法】知識・技術の習得と現場での活用を往還的に展開し、学びの意欲の喚起と現場で活きる知識・技術の習得を図る。 (CP4-3) 【教育方法】国内外での実践的なフィールドワーク科目を1・2年次に配置し、専門科目の学びへの意欲を高めるとともに、現場見学、ゲストによる聴講学習等により、現場を重視した実践的な学びを展開する。 (CP4-4) 【教育方法】リーダー養成の観点から、異学年共修型のピアサポートによるPBL等のアクティブラーニング型の科目を配置し、能動的・自主的な学修の充実を図る。 (CP5) 【教育方法・評価方法】CAP制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。	<u>スポーツ指導学科</u>
(CP1) 【初年次教育】高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教育科目として初年次教育科目を配置する。 (CP2) 【教養教育】幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。 (CP3-1) 【専門教育】学科専門科目としてスポーツ指導分野に関する基礎的知識と技能の科学的視点からの理解に関する科目を配置する。 (CP3-2) 【専門教育】学科専門科目としてスポーツパーソンシップ及びリーダーシップに基づく指導力の獲得に関する科目を配置する。 (CP3-3) 【専門教育】学科専門科目としてスポーツ指導分野の課題分析力の修得に関する科目を配置する。 (CP4-1) 【教育方法】専門的な知識及び技能、論理的思考力の育成を目的とした科目群を編成し、実践的、能動的な学修環境の整備に繋げる。 (CP4-2) 【教育方法】演習、実習、インターンシップ等を通じた実践的・体験的な学びの機会を設け、学生の能動的な学修環境を整備する。 (CP4-3) 【教育方法】キャリア形成の観点から、学生の社会的・職業的な自立に必要な能力・態度の育成を図るために、教育課程における科目の位置づけと各科目において達成すべき目標を明示する。 (CP5) 【教育方法・評価方法】CAP制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ、ステューデントハンドブック、入学試験要項） https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?content=16
(概要) <u>スポーツビジネス学科</u> スポーツや健康に関する知識を習得し、スポーツビジネスの現場で活躍できる人材を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。 【求める学生像】 (AP1) 本学科での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】 (AP2) 多様な価値観を尊重し、他者と協力しながら、主体的に学ぶ意欲がある人。【主体性・多様性・協働性】 (AP3) 身近な社会問題について関心を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】 (AP4) スポーツや健康に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】	

(AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】 <u>スポーツビジネス学科</u> 生涯スポーツの育成発展に努めながら、スポーツを通して地域社会に貢献できる教養豊かなスポーツ指導者を育成するために、以下の資質、能力、意欲を持った学生を受け入れる。 【求める学生像】 (AP1) 本学科での学修に必要な学力を有している人。【知識・技能】 (AP2) 自らの考えを持ち、他者と協働して学ぶ意欲を持つ人。【主体性・多様性・協働性】 (AP3) 広く社会の諸課題について問題意識を持ち、それを説明・表現できる人。【思考力・判断力・表現力】 (AP4) スポーツ健康・スポーツ指導分野に興味・関心を持ち、専門知識と技能を身に付ける意欲を持つ人。【意欲・関心】 (AP5) 目的の達成に向けて努力することができる人。【態度】

②教育研究上の基本組織に関すること

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20230607_165257.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
人文学部	－	16 人	13 人	3 人	0 人	0 人	32 人
観光学部		8 人	6 人	2 人	0 人	0 人	16 人
スポーツ人間学部		12 人	5 人	4 人	0 人	0 人	21 人
全学共通教育（専従者）	－	3 人	1 人	3 人	0 人	0 人	7 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
2 人			108 人				108 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://www.siu.ac.jp/about/detail.html?comtent=44					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
建学の礎、教育の基本的考え方及び学部等の教育目標に基づいて行う教育改善・向上に係る活動 を支援するために、FD 委員会を設置し、年間 4～5 回の F Dを開催している。2024 年度の開催 状況は以下のとおりである。							
①クォーター制・105 分授業の実施に向けて（2024 年 4 月 22 日）							
②PBL にのける授業改善（2024 年 7 月 22 日）							
③オンデマンド授業について（2024 年 10 月 21 日）							
④クォーター制・105 分授業の実施に向けて（2025 年 1 月 27 日）							
⑤新システムの操作方法について（2025 年 3 月 24 日）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	190 人	191 人	100.5%	700 人	741 人	106.4%	若干名	12 人

観光学部	110 人	105 人	95.5%	500 人	351 人	70.4%	若干名	12 人
スポーツ人間学部	140 人	172 人	122.9%	560 人	600 人	107.7%	若干名	0 人
合計	440 人	468 人	106.4%	1,760 人	1,692 人	96.6%	若干名	24 人

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	136 人 (100%)	10 人 (7.4%)	101 人 (74.3%)	25 人 (18.4%)
観光学部	103 人 (100%)	7 人 (6.8%)	75 人 (72.8%)	21 人 (20.4%)
スポーツ人間学部	124 人 (100%)	8 人 (6.5%)	103 人 (83.1%)	13 人 (10.5%)
合計	363 人 (100%)	25 人 (6.9%)	279 人 (76.9%)	59 人 (16.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 上越教育大学大学院、札幌国際大学大学院 JTB(株)、ANA 新千歳空港、北海道、青森県、警視庁、ニトリ、大林道路(株)、(学)大藤学園 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	157 人 (100%)	111 人 (70.7%)	7 人 (4.5%)	28 人 (17.8%)	11 人 (7.0%)
観光学部	98 人 (100%)	76 人 (77.6%)	4 人 (4.1%)	16 人 (16.3%)	2 人 (2.0%)
スポーツ人間学部	137 人 (100%)	116 人 (84.7%)	3 人 (2.2%)	15 人 (10.9%)	3 人 (2.2%)
合計	392 人 (100%)	303 人 (77.3%)	14 人 (3.6%)	59 人 (15.0%)	16 人 (4.1%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
教員に対して次年度担当授業科目のお知らせをする際に、当該授業科目のシラバス原稿の作成依頼をあわせて行っている。シラバスの記載項目は、「授業の目的と概要」「到達目標」「授業の進め方」「アクティブ・ラーニング」「課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法」「授業計画」「事前事後学修」「ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)との関連」「成績評価基準と方法」「テキスト」「参考文献」「実務経験のある教員の有無」「実務経験のある教員の経歴と授業内容」等について記載することとし、各項目の記載内容及び記載例をシラバス作成要領で示している。

シラバスは、Web 上で入力可能なシステムが構築されており、教員は Web 上に表示される次年度担当授業科目一覧から選択し入力していく。
 入力締め切り後、「シラバスチェック実施要領」で定められたチェックの観点に基づいて、各学科等の教務部員が内容の確認を行う。チェックの結果、明らかに基準に合致していないと判断される場合には、当該教員にフィードバックし修正を求める。
 なお、シラバスの作成についてはすべての学部で同様に進められ、当該年度の 4 月 1 日に Web 公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

成績評価は期末試験だけではなく、授業内の小テスト・発表・レポート・課題への取り組み状況など、複数の項目の合計得点によって決定している。科目担当者はこれらの配点をシラバスに明記するとともに、各項目の得点を記した資料を提出し、成績の算出根拠を明示するなど、厳密な成績評価を実施している。成績評価の基準は科目ごとにシラバスで示されており、『STUDENT HANDBOOK』に明記されている次の 2 つの原則に則ったものとなっている。

- 1) 科目の単位は、原則として授業のすべてに出席し、事前事後の自己学習を含めた学習に対して認められる。
- 2) 病気などによりやむを得ず欠席したとしても、学習内容の理解と習得には 3 分の 2 以上の出席が必要である。

また、学習を効果的に進め、その質を高めるために G P A 制度を全学部で統一的に導入している。学生の成績評価を数値化することで、客観的に学習結果をモニターすることができる。

G P A は科目毎の成績評価に対して 0.0 点(不可)、1.0 点(可)、2.0 点(良)、3.0 点(優)、4.0 点(優+)のグレードポイントをつけ、1 単位当たりの平均成績評価点を算出する。

また、G P A の算出方法については『STUDENT HANDBOOK』に明記して学生に周知するとともに、各学期末には G P A が記載された個人成績表を保護者に通知する際、G P A 制度について明示している。

なお、学生の学習時間の確保のため C A P 制度を導入し、次の各学期の履修上限単位数を設定し、運用している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	国際教養学科	124 単位	☑・無	半期 24 単位(GPA により変動)
	心理学科	124 単位	☑・無	半期 24 単位(GPA により変動)
観光学部	観光ビジネス学科	124 単位	☑・無	半期 24 単位(GPA により変動)
スポーツ人間学部	スポーツビジネス学科	124 単位	☑・無	半期 24 単位(GPA により変動)
	スポーツ指導学科	124 単位	☑・無	半期 24 単位(GPA により変動)
G P A の活用状況 (任意記載事項)		活用方法 : ・奨学金貸与資格、教職課程履修資格、留学の選抜等に利用している。 ・学修支援プログラム(面談、週一回の受講状況確認等)の対象者の抽出に利用している。 公表方法 : 『STUDENT HANDBOOK』 p 72 に記載 (https://www.siu.ac.jp/assets/pdf/2025siu.pdf)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法:https://www.siu.ac.jp/common/img/content/content_20250513_164134.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	全学科	1 年次 810,000 円	230,000 円	126,800 円	施設費、教育充実費、学生研修費、学研災保険料
		2・3 年次 820,000 円	—	110,000 円	施設費、教育充実費
		4 年次 820,000 円	—	110,000 円	施設費、教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組	
(概要) 1. 学生の修学全般に関する支援体制 本学では教育理念（建学の精神）に則り、「学生一人ひとりを大切に、みづめ、伸ばす教育」を行うことを目的として、専任教員による「アドバイザー制度」を実施している。学科長より任命された教員がアドバイザーとなって学生を担当し、学生の学習（履修や単位）や進路、学生生活などに関する支援と指導を行っている。アドバイザーは半期ごとに個別面談を実施することとし、必要に応じて他部署（教務課、学生課、学生サポートセンター、ライティング・ラボなど）と連携しながら支援と指導を行う。また、日常の面談はオフィスアワーで適宜実施する。アドバイザーの主な役割は以下の通り。 ・学習に関すること（履修指導、学習の進め方に関する相談など） ・進路に関すること（学籍異動に関する相談、就職や進学に関する相談、留学やボランティアなど諸活動に関する相談） ・学生生活に関すること（人間関係、健康面の相談、ハラスメント等の相談） ・関係書類の作成（奨学金、留学、就職、進学等の書類作成、面談記録の作成など） 2. 成績不振学生を対象とした学修支援プログラム 本学では、各学期の成績（GPA 又は修得単位数）が所定の基準に届かなかった場合に、当該学生の成績向上に向けてアドバイザー教員を中心としたバックアップ体制を構築し、定期的な面談を行いながら、必要な支援を行う。 また、2 年終了時の成績が一定の基準に到達しなかった場合は、保証人を交えて今後の展望についての協議を行う。 3. ライティング・ラボにおける学修支援 本学は教育の質保証及びその一層の向上を図るために、「ライティング・ラボ」を設置している。主な機能は以下の通り。 ・全学的な学習支援施策の企画及び実施 ・学修相談（レポート等の文章作成、プレゼンテーション方法、学習ツールの活用等） ・個別学習スペースの提供 ・グループ学習スペースの提供 ・パソコン貸出 ・教育活動の推進及び支援に関すること	
(概要) 初年次からのキャリア支援 学生が将来の活躍の場を考え、一人ひとりが自分のキャリアデザインをイメージできるように、段階的なプログラムや資料、情報を提供する。主な支援としてアドバイザー教員との連携、就職ガイダンス・講演会の開催、就職適性テストの実施、業界研究セミナーの開催、合同企業説明会の開催、資格取得講座の開催等がある。 キャリア支援センター 「キャリア支援センター」は、就職・進学活動に取り組む学生をさまざまな面からサポート。進路についての相談や就職に関するアドバイス、職員及び外部キャリアアドバイザーを招聘し、面接や履歴書の書き方の指導なども行っている。各業界とのネットワークも幅広	

く、企業や就職に関する情報を豊富に蓄積。就職や進学、キャリアアップについて、最大限の支援をしていく。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の心身両面の健康増進及び修学支援の充実を図り、質の高い教育環境の保証及びその一層の向上に資するため、学生サポートセンターを設置している。 学生サポートセンターには、福祉の国家資格を持つキャンパス・ソーシャルワーカーや公認心理師・臨床心理士の資格を持つ心理カウンセラーが所属しており、障がいを抱える学生や困りごと、心配事のある学生の修学支援（合理的配慮）の相談をはじめ、学生生活を送るうえで出会う様々な問題や悩みを受け止め、より良い解決方法を共に考える場を提供している。 また、保健室には、看護師資格を持つ職員を配置し、急病やケガなど日常の応急手当、その他の健康に関することの相談に応じている。 さらに、学生サポートルームには、フリースペースや個別学習室、セミナールームなどを備え、学生の皆さんが思い思いの時間を過ごすことが出来る空間も提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://siu.ac.jp/about/detail.html?content=22

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。